

水道事業のあゆみ



水道事業のあゆみ

本市の水道は、昭和5年（1930年）5月24日、柳が崎水源地（現：柳が崎浄水場）で通水式を挙行し、誕生しました。昭和8年（1933年）の膳所・石山両町との合併においては、上水道整備が合併条件の1つになっていたことから、昭和11年（1936年）に第1次拡張事業に着手しました。

終戦後は、本市に米軍が駐留することになり、駐留軍への給水義務が生じたことから、第2次拡張事業として柳が崎浄水場建設に着手し、昭和23年（1948年）に完成しました。

戦後の経済復興とともに水需要が高まったことから、第3次拡張事業に着手し、昭和30年（1955年）には膳所浄水場を建設しました。

昭和30年代には高度経済成長期を迎え、市勢が発展する中で第4次拡張事業を進めるとともに、昭和42年（1967年）には瀬田・堅田両町との合併に伴い、第5次拡張事業に着手しました。

昭和49年（1974年）のオイルショックにより、経済は低成長期に入りましたが、水需要は減少には転じず、昭和52年（1977年）には第6次拡張事業に着手、昭和55年（1980年）に真野浄水場が完成しました。

昭和50年代後半の市東部の発展に対応するため、昭和57年（1982年）、第7次拡張事業に着手し、昭和60年（1985年）に瀬田浄水場を廃止し、新瀬田浄水場を建設しました。

その後、平成7年（1995年）には第8次拡張事業に着手し、3回の事業計画の変更を行い、平成18年（2006年）に志賀町水道事業を統合し、同町の八屋戸浄水場と比良浄水場の2浄水場を加えました。そして、平成21年に南部浄水場を廃止し、浄水場は6箇所となりました。

平成26年（2014年）には6つの浄水場をはじめとする本市全ての水道施設の総合監視体制の拠点となる浄水管理センターが完成し、その運用を開始しています。



山上浄水場

大津市最初の浄水場（昭和44年（1969年）廃止）。現在、跡地は山上配水池になっている。



浄水管理センター

柳が崎浄水場内に平成26年度に完成した水道施設の総合監視体制の拠点となる施設。6箇所の浄水場をはじめ、全ての水道施設の運転管理と水質管理を一体的に行っている。

年表 大津市水道事業の主な出来事

年・西暦		主な出来事
昭和5	1930	山上浄水場完成（昭和44年廃止）
〃	〃	給水開始（40,000人・5,844m ³ /日）
10	1935	第1次拡張事業認可（64,450人・6,544m ³ /日）
21	1946	第2次拡張事業認可（64,450人・20,360m ³ /日）
22	1947	第3次拡張事業認可（84,650人・25,360m ³ /日）
23	1948	柳が崎浄水場完成
30	1955	膳所浄水場完成
36	1961	第4次拡張事業認可（100,000人・35,360m ³ /日）
40	1965	水質試験所完成
〃	〃	柳が崎浄水場に緩速ろ過池増設
42	1967	第5次拡張事業認可（174,000人・104,400m ³ /日）
〃	〃	瀬田町及び堅田町と合併
45	1970	琵琶湖の富栄養化によるカビ臭発生、粉末活性炭処理を開始
〃	〃	膳所浄水場に急速ろ過池完成
47	1972	瀬田川共同橋完成
48	1973	柳が崎浄水場に急速ろ過池完成
52	1977	第6次拡張事業認可（224,000人・144,900m ³ /日）
55	1980	真野浄水場完成
57	1982	第7次拡張事業認可（269,000人・170,900m ³ /日）
60	1985	新瀬田浄水場完成、粒状活性炭処理を導入
平成元	1989	比良浄水場完成
4	1992	膳所浄水場に生物接触ろ過を導入
6	1994	琵琶湖の水位観測史上で最低を記録（マイナス123cm）
7	1995	阪神・淡路大震災
〃	〃	第8次拡張事業認可（329,000人・191,400m ³ /日）
10	1998	柳が崎浄水場に生物接触ろ過を導入
12	2000	八屋戸浄水場完成
18	2006	志賀町と合併（349,080人・202,290m ³ /日）
20	2008	大津市水道ビジョン・重点実行計画「結の湖都・水道ビジョン」を策定
〃	〃	第8次拡張変更事業認可（356,000人・185,500m ³ /日）
21	2009	南部浄水場廃止
23	2011	東日本大震災
24	2012	大津市水道ビジョン・重点実行計画・第Ⅲ期大津市（水道事業）中期経営計画「結の湖都・水道ビジョン」改訂版を策定
26	2014	浄水管理センター完成
27	2015	坂下簡易水道の上水道への統合
〃	〃	湖都大津・新水道ビジョン、重点実行計画、中長期経営計画（経営戦略）を策定（計画期間：平成28～40年度）

(計画給水人口・計画一日最大給水量)

浄水場の概要

平成26年度（2014年度）末現在

浄水場名	浄水処理能力 m ³ /日	水源	琵琶湖水利権 m ³ /日 (m ³ /秒)	浄水処理方法	建設年度
比良浄水場	4,000	淀川水系琵琶湖表流水	4,062 (0.0471)	急速ろ過 粉末活性炭処理	平成元年 (1989年)
八屋戸浄水場	5,200	淀川水系琵琶湖表流水	5,269 (0.0610)	急速ろ過 粉末活性炭処理	平成12年 (2000年)
真野浄水場	45,000	淀川水系琵琶湖表流水	48,000 (0.556)	急速ろ過 粉末活性炭処理	昭和55年 (1980年)
柳が崎浄水場	45,000	淀川水系琵琶湖表流水	48,000 (0.556)	緩速ろ過 急速ろ過 粉末活性炭処理 生物接触ろ過	昭和23年 (1948年)
膳所浄水場	48,800	淀川水系琵琶湖表流水	53,300 (0.617)	急速ろ過 粉末活性炭処理 生物接触ろ過	昭和30年 (1955年)
新瀬田浄水場	37,500	淀川水系琵琶湖表流水	37,500 (0.435)	急速ろ過 粒状活性炭ろ過	昭和60年 (1985年)

水道施設の規模

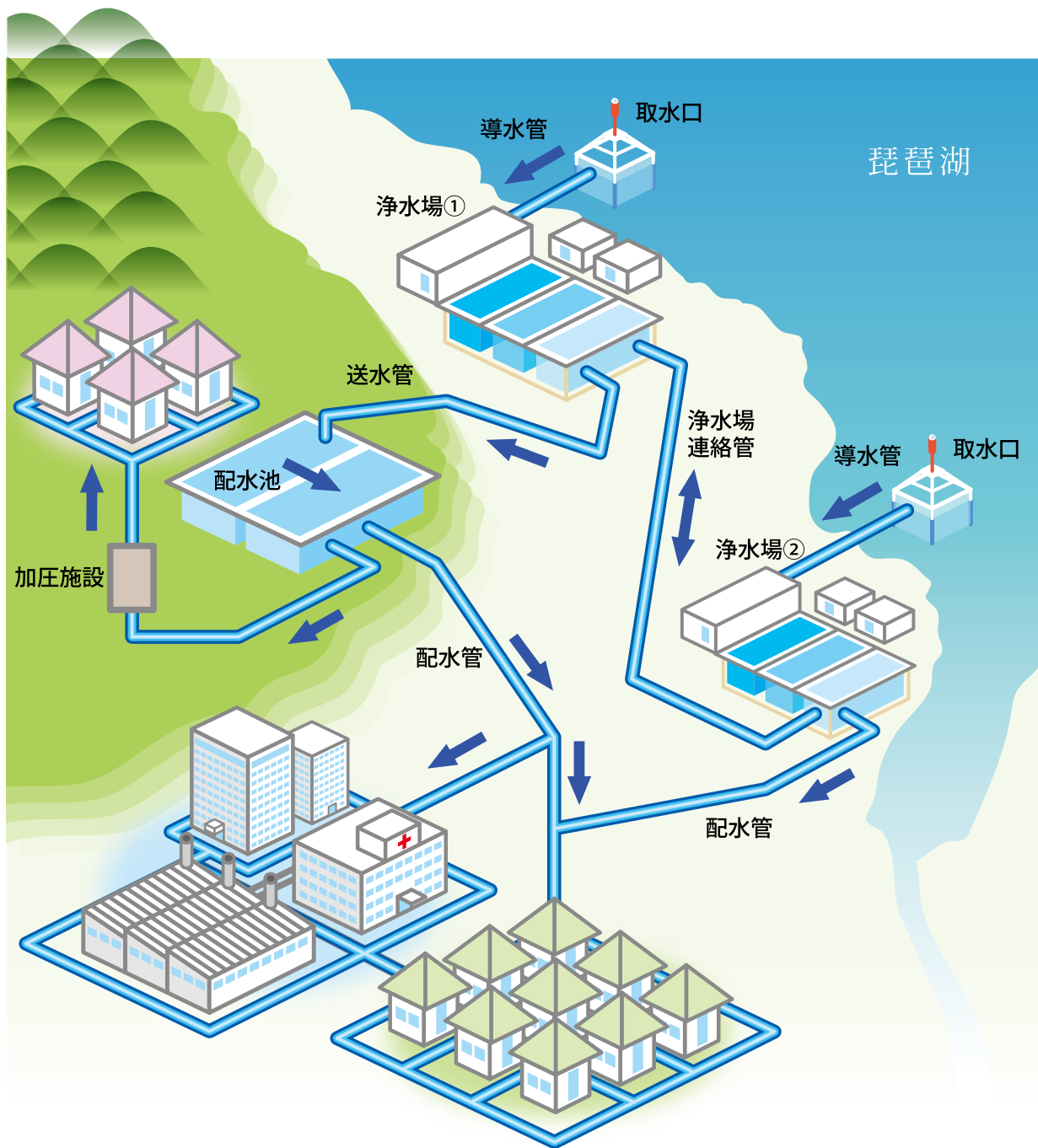
平成26年度（2014年度）末現在

	浄水場（箇所）	配水池（箇所）	加圧施設（箇所）	管路延長（km）
上水道事業	6	68	69	1,441
簡易水道事業	2	4	1	16
合計	8	72	70	1,457

※休止施設は除く。

※管路延長は、導水管、送水管及び配水管を合計した延長である。

大津市の水道システム図



取水口

水道水の源である琵琶湖の水を取り入れる施設です。

浄水場

取水した水を浄水処理(浄化・消毒)することで、安全な水道水をつくる施設です。

配水池

送られた浄水を一時的に貯留し、需要量に応じて流出制御を行う施設です。

浄水場連絡管

複数の浄水場を水道管でつなぎ、仮に1つの浄水場で水道水をつくれなくなっても他の浄水場から水道水を送ってもらうことで断水を防ぐことができます。

加圧施設

高台地区へ水道水を送るための施設です。